



なんで医者が 電気屋を？

若林クリニック所長・
きらきら発電市民共同発電所理事長 水戸部 秀利

寄稿



原発に変わるエネルギーを自分たちで作る

★ その集まりを通じて脱原発を願う様々な立場の方々と知り合いました。その会話の中から、原発反対を叫ぶだけでなく、原発に変わるエネルギーを自分たちの手で作ってみようという話が持ち上がり、ました。言い出しっぺの私が、

2015年9月、若林クリニック近くの井土浜に「市民共同発電所開所」の記事が、河北新報に掲載されました。患者さんから、「先生、なんで電気屋なんか？」と尋ねられました。「原発なくしたいから」と返事しましたが、患者さんは怪訝な顔でした。45年余の医者人生からみれば、ずいぶん道を外したものです。3.11がなければ、今頃は退職金で釣り船を購入し晴釣雨読の日々だったかもしれません。「人生万事塞翁が馬」です。道を外した震源地は3カ所です。民医連人生で培われた人権や平和への思いと理不尽なことは許せないという精神、長町病院院長時代の「被爆者医療から学んだ被ばくの悲惨さ」、そして今回の「3.11福島原発事故の惨状」です。私はトイレなきマンション

「この指とまれ」で呼びかけたところ、たくさんの「ぞたねー」がつながり、NPO結成から太陽光発電所建設まで一気に進みました。ネットワークは医療関係を超え、脱原発のみならず省エネや再エネ・環境問題に関心を持つ県内の多くの方々に広がりまし

という矛盾を知らながら今回の原発事故まで、原子力の平和利用という集団催眠に半ば毒されていました。原発事故が国土汚染と多数の被ばく者を生み出した現実を目の当たりにし、厳しく自己反省を迫られました。被爆者医療から学んだ反原発だけでなく脱原発という意味での「反核」も重要な柱になりました。以後、脱原発の集会やデモに仕事帰り、釣り竿に提灯をぶら下げて参加し、一番町を



一番町をデモ行進

た。私たちNPOの掲げる五つの理念(脱原発、エネルギー争奪のない平和、CO₂削減と地球環境保全、エネルギーの地産地消、災害予備電源)に共鳴する方々がいかに多いか思い知らされました。

発電事業開始

発電所は1号機(若林区井土浜50KW2015年)、2号機(太白区もりの子保育園30KW2015年)、3号機(塩釜市あゆみ保育園16KW2016年)、4号機(巨理町長瀬50KW2018年)まで建設され、5000万円を超える建設費は200名を超える市民の資金結集で実現しました。

発電事業を開始してまもなく3年半になりますが、累積発電量は50万KWHを超え、計算上は、100万KWHの原発を30分間止めたことになり、CO₂削減は灯油18L缶6000個分以上に相当し、その石油代約1000万円の海外への国富流出を止めたことになりました。

本年3月を目標に、5号機を多賀城伝上山の坂病院駐車場への建設が決まりました。駐車場に屋根を取り付け、その屋根に太陽光パネルを設置します。費用は約1900万円、地域の方々に資金協力をお願いしています。(利息はなく、10年後に元金を返済す

る仕組みです。可能な方は是非ご協力下さい。)



きらきら発電所説明会

環境やエネルギーに関わる諸団体と連携・協力

このような市民共同発電事業は県内で初めてだったこともあり、掲げる理念との関係で環境やエネルギーに関わる諸団体との連携・協力が生まれました。私も含め、当NPOの役員・会員は環境問題やエネルギー問題に必然的に関わることになりました。

厚生協会たよりの転載



第5回総会でパルシステムへの売電決定(井土浜1号機から)

きらきら電力購入希望者は購入先をあいコープに切り替えてください

NPOきらきら発電は4月27日第5回総会を開き、2018年度の活動報告・決算と2019年度の活動方針・予算案を審議。2019年6月より電力の売り先を、井土浜1号機について、東北電力からパルシステム(購買生協)に切り替えることを確認しました。

自然エネルギー由来の電力を買おう

購買生協卸のパルシステムは関東・南東北を対象地域にし、宮城では「あいコープみやぎ」が卸先になっています。したがってきらきら発電の電力を使いたい方は、「あいコープみやぎ」に加入し、電気を購入することになります。

11月2～3日旅行会で見学できます

パルシステムは自然エネルギー由来の電気を扱っており、飯館電力・元気あっぷ土湯・ひっぽ電力・山形野川発電などから電気を仕入れています。どこもきらきら発電が今年11月「自然エネルギー見学旅行」にゆく場所です。

当日パルシステムの方が案内されます。多くの方が参加されることを期待します。

みやぎ生協にも打診しました

東北電力が2020年女川原発2号機の再稼働に固執しているため、きらきら発電は売り先を変更しました。あいコープだけでなく、みやぎ生協にも打診しましたが、みやぎ生協は自分のところで発電したものを売る方針で、市民発電所の電力を購入する予定はないとの返事でした。

ということで、ぜひ「あいコープ」にも加入されることを期待します。(電力購入のみでも可)

2019年電力10円以下の時代へ 発電した電気は自分で使う時代に

「フィット終了=2019年問題」と題して「新エネルギー革命会顧問」の恒石隆顕氏が記念講演をされました。恒石氏は家庭用太陽光発電が2019年11月より定額売電制度(フィット)から卒業(2019年度53万軒)するため、四国電力は7円・関西電力は8円で購入すると発表と紹介。今家庭が購入している電力は25円～30円。だから自分の家で発電した電力を7円～8円で売るより自分で使い切る人が増える。すなわち蓄電池を売る商売がさかんになると強調。しかも今一番安い蓄電池は日産の電気自動車リーフ。電気自動車を買う人、蓄電池を購入する人が増える時代になる。恒石氏は「今後地球の気温が2度も高くなると予想される。子供たちの未来のために、地球温暖化をストップさせる責任が大人にある」とし自然エネルギーの役割を強調しました。また政府の「原発再稼働政策は使用済み核燃料問題を無視している」と批判しました。

きらきら発電市民共同発電所ニュース

2019年5月号

〒981-3215

仙台市泉区北中山3丁目17-12、広幡方

電話・FAX 022(379)3777

HP

kirakirahatuden.com/

Eメール

hirohata3777@outlook.jp